

(別添資料1)

事業所名		おひさまのたね療育園（児童発達支援事業所）				支援プログラム		作成日	令和7年	3月	31日
法人（事業所）理念		①すべての生命と繋がりを大切に ②みんなの笑顔と感動を共に									
支援方針		・障がい児が生活能力の向上及び日常生活における必要な訓練を行い、基本的動作及び知識技能を習得し、集団生活に適応しながら他者との交流を図る事ができるよう支援する ・障がい児の身体及び精神に状況並びにその置かれている環境に応じて「発達支援（本人支援）」「家族支援」「地域支援」を元に総合的な視点に考慮しながら適切かつ効果的な指導及び訓練を行うものとする。									
営業時間			9時	0分	から	17時	0分	まで	送迎実施の有無	あり	宜野湾市外要相談
		支 援 内 容									
本人支援	健康・生活	事業所の環境構成を家庭的な雰囲気にする事で、利用児が安心して過ごすことができるよう工夫をしている。 個室の窓にも加工を行っており、外からは見えないが、中からは見える状態になっており、利用児の安心感やパーソナルスペースを確保しやすい居場所作りとなっている。 レクリエーション等の身辺自立に感して、また、その個別対応を基本としているため、丁寧な関わりをもち、取り組んでいる。									
	運動・感覚	理学療法士による専門的な支援をメインに運動・感覚に関する支援を展開。 また、施設屋上の園庭や、同法人事業所のおひさま認定こども園の園庭遊具も活用し、伸び伸びと身体を動かす環境を整えている。 近隣の公園での活動も多く、ボールや縄、サークル等の道具を用いた内容も組み込んでいる。 室内活動においても、マットや跳び箱等の運動器具の他、粘土等の粘土での感覚も育てる内容も多く取り入れている。									
	認知・行動	利用児の発達に合わせた遊びを通して認知機能の向上を目指す。 色や数字等の学習要素の強い課題から、積み木やお絵かきといった活動においても声掛け等を通して発達を促す。 また、認知の偏りが見られる利用児に関しては、グループ活動や絵本を用いて改善を目指す。 療育や関わり付きの難しい利用児に対して、個別の支援はあくまでも、そのペースを尊重し、徐々に適応出来るよう支援する。									
	言語 コミュニケーション	対象児に対し、言語聴覚士による個別の訓練を行っている。 発語以外にも、コミュニケーションの支援や、発達における全般的な支援も個別訓練の中に組み込み、 様々な方向からアプローチを行う。 また、言語訓練対象以外の利用児に対しては、適宜評価やアドバイスをし、スタッフの質の向上や支援の参考として連携を取っている。									
	人間関係 社会性	個別の活動や声かけに加え、保育園等の大集団への参加を目指し、小集団での活動で成功体験を積んでいけるよう支援を行う。 また、異年齢との小集団活動を経験することにより、年下への配慮、年上の模倣といった観点からも社会性の獲得を目指す。 SST等の専門的な支援に関しても、職員研修や外部講師の研修を積極的に取り入れ、日常支援へも活かしていけるよう計画中。									
家族支援		保護者のスマホで手軽に支援状況を把握出来るようICTを活用している。 写真配信サービスで活動内容を写真で見ることが出来るようにしている。 発達支援講座の案内を行い、保護者の支援に対する情報提供を行っている。					移行支援		利用児が新しい事業所の利用を開始するときや、 小学校へ進級する際の情報提供書の作成など、 移行先の職員とのがスムーズに行えるよう工夫している。		
地域支援・地域連携		同法人の認定こども園の行事に参加し、 幅広い年代、地域子ども達との交流を行っている。 また、同こども園の保護者からの発達に関する支援の相談等を受け付けている。					職員の質の向上		発達支援講座「あいのうらりん」開催 体軸ファシリテーター資格取得の援助		
主な行事等		合同保育交流会／お別れ遠足									